

●2月11日 京田辺市南部まちづくりセンターで地域説明会

に24人の人々が駆けつけていただきました。三山木地域では初めての開催で見てもらえないのではないかと予想していましたが、たくさんおいでいただきました。この会場では河川レンジャーアドバイザーの田中実知世さんがこれまでの河川レンジャーとして長年関わってこられた「木津川・川ガキ団の成長」の活動を紹介していただきました。また今日の活動している内容も面白く語っていただき、聞く人の目を輝かせました。お話の最後に19日に実行される木津川一斉清掃が3年ぶりに15か所で開催されるので参加が呼びかけられ、川のごみがいま話題になっている海ごみ「マイクロプラスチックごみ」となっている現状を説明されました。うれしいことです。



●次回は18日（土）に木津川市加茂町の文化センター（旧役場）で13:00から今年最後の地域説明会を開催いたしますのでぜひお越しください。ここでのお話は福井波恵さんが木津川や赤田川での活動を紹介していただきます。今一番力を入れておられるのが大阪城の築城時に使われなくなった残石（一般的に残念石）についてや石マニアでは知っている高師小僧というのを発見されたので現物を見せていただくようお願いしておきました。ご期待ください。

●2月11日 京都大学の中書島にある防

災研究所（宇治川ラボラトリー）で2015年から竹門康弘准教授や角哲也教授らと里山の会が一緒に取り組んできた竹蛇籠や中聖牛設置の研究発表会が開かれました。この研究には奈良女子大学



や摂南大学の先生方の報告があって5時間の長丁場でした。この研究で中聖牛の製作を行い設置して現場での実験の立役者を果たしたやましろ里山の会からも、製作するための苦労や工夫を凝らさなければならなかった経験が報告されました。何よりも「高橋式竹割機」の製作なしにはこの事業はできなかつたろうと思われまふ。続いて節とり機を三重県松阪まで買い取りに行っていたこと、そして誰もが考えつかないバイクを二分割して製作した第一代「太田式幅精製機」、そして藪から竹を選び出す時のゲージや素材の幅を最後に測定するゲージや、六つ目網の底部つくりの定規、ペンチでは時間がかかるので針金の締め付ける金具、そして子供たちにでも作れるステップル製造機などを工夫して作り上げて竹蛇籠や中聖牛ができあがったのです。そしてこの事業が完成できるために4つの力があつたからだと発表しました。

技術的な困難を乗り越えられた4つの力

- ① 原小組さんの援助指導によって理解が深まった
- ② 現場への輸送の可能な通路の設置で勇気づけられた
- ③ 三つの道具を工夫したことによって可能性に自身が持てた
- ④ わからなかったけれど懸命に頑張った仲間がいた事

最後に竹門先生からこの成果を生かし川づくりに全国民が取り組んでくれるように成果を冊子にまとめるので協力頂きたいと閉められました。

●越冬中のツチイナゴを発見

木津川堤防の希少種植物調査に係る刈草の収集作業を現在していますが、越冬中のツチイナゴの成虫を見つけたので、昨年9月に農園で写した幼虫の写真と11月に撮った成虫の写真を添えて報告します。『ツチイナゴ バッタ科 50～70 mm 「土のような色をしたイナゴ」という命名。大型のバッタとしては国内で唯一、成虫で越冬します。土色の体色は冬枯れの野における保護色となっています。複眼の下に涙のように流れる黒い筋があり、「涙目のバッタ」などと形容されます幼虫時代の体色はほとんどの場合「土」ではなく緑色をしています。』参考図書：寝屋川市自然を学ぶ会発行「むしを探そう」（身近な自然ガイドブック）資料編 71 頁 133 から引用



●ヤマトサンショウオの卵嚢1対見つかる

1月～3月は産卵の季節です。1月24日に卵嚢2対が見つかり定期的に観察を続けています。今回3つめの卵のうがみつかりました。これから3月にかけて産卵数が増えるものと思われます。又、農園奥の池にはアカガエルの卵、テニスボール程の大きさの卵塊が15個もありました。今後孵化して、大量のオタマジャクシが泳ぐことになると思われます。



●フィランソロピー協会から2023年度も50万円寄付するので活動計画書を提出してほしいと連絡がありました。先週号にも掲載いたしましたその内容は、

- ①里山農園での活動(昆虫観察会・ホタルの夕べと里山音楽会)
- ②木津川での活動(魚とり2回・植物観察会3回＝5月6月9月)
- ③親子花見乗船体験(馬坂川の清掃・乗降場づくり・親子花見乗船体験)
- ④イタセンパラの復活を目指す取り組み(ワンド周囲の除草作業・生育調査・外来魚椎体会)

などの4つのイベントで申請をいたしました。もし承認されれば、実行のためのご協力をお願いします。

●2月14日 NHK・TV から取材に来所されました。

対応は伊藤千恵子さんと山村が応じました。取材は「京田辺市の大住工業団地の開発と希少植物の保全」などのことでした。放映はNHK 京都 2月16日(木)の午後6時半から「こえきく」のコーナーです

2021年8月27日の造成予定地の現地生育植物地の立会風景



2023年2月14日のNHK・TVの撮影風景



●2月19日 9:30 から木津川一斉清掃 15か所でクリーン作戦実施 ご参加を

●小川芳也さんの松江通信 No. 20

掃流力が流れに抵抗する力を上回ったときに、土砂は移動を始めます。今、粒径 1cm について移動するのかもしれないかを考えたいと思います。掃流力を流速の単位で表現した「摩擦速度」は、10.720cm/s（木津川）、33.899cm/s（斐伊川）となります。河床材料や流れの性質などを考慮した限界摩擦速度（移動を始めるかどうかの限界値）は岩垣の式より 8.99cm/s なので、木津川と斐伊川の値はそれを上回っているため粒径 1cm の土砂は移動することになります。では、移動しない土砂の粒径はどれくらいになるかというと、木津川では 1.42cm 以上、斐伊川では 14.20cm 以上となりました。斐伊川ではこぶし位の大きさでやっと動かなくなるんですね。と言うことは、木津川よりも斐伊川の方が移動しやすい＝掘れやすい河川ということもイメージしてもらえたと思います。少しまとめると、勾配が変わると流れの速さや流量、移動するしないの粒径も変化することになります。この続きは次回に・・・

●太田敏之さんの小笠原旅行日記（完） ～6 日目、2022 年 12 月 1 日 木曜日～

おがさわら丸の東京到着は午後 3 時なので、おがさわら丸の船上で夕食（小鉢、生ビール、オムライス）、朝食（500 円の洋食 A）、昼食（島塩ラーメン）をとりました。夕方、デッキで日没を見ましたが、夜になると波が高いからとデッキでは出られなくなりました。暇な時間はテレビを見たり、数独（ナンバープレイス）をして過ごしました。船は途中 20 分ほど遅れているとの事でしたが、竹芝桟橋にはちょうど 3 時に到着しました。浜松町から電車に乗り、品川で新幹線に乗り換え京都駅経由で、新田辺には 18 時半に到着しました。